

■ インタープリテーションって、何？

目に見えるものから、目に見えない意味や価値を伝える。

インタープリテーションとは、自然や歴史の情報を説明するだけでなく、その背景にある意味や物語を分かりやすく伝え、興味や理解、共感を深めるコミュニケーションの方法です。

例えば、いつも見ている日高山脈も「大陸プレート同士の衝突によって生まれた山並み」として伝えることで、ただ美しい山の風景から、大地のダイナミックな営みを感じる体験へとつながります。

【令和7年度は、北部地域で取り組みました】

昨年度は、日高山脈襟裳十勝国立公園の北部地域を対象に、地域のみなさんと2回のワークショップを開催しました。自然、風景、食、文化、歴史などの地域資源を出し合い、その魅力や伝えたいことを話し合い、「北部地域 小さなインタープリテーション計画～試行版～」としてまとめました。

今年度は対象を国立公園全域に広げ、この地域のみなさんと一緒に、さらにストーリーを深めていきます。

→ぜひご覧ください！

昨年度の取組は
こちら



■ なぜ、日高山脈襟裳十勝国立公園で インタープリテーションに取り組むの？

この地域の価値を、みんなで知り、守り、伝えていくために

日高山脈襟裳十勝国立公園は、とても広大です。

険しく原始的な山岳地域がある一方、アポイ岳のように登山を楽しめる場所、十勝平野などから山々を眺める場所、襟裳岬をはじめとする海岸地域があります。地域ごとに自然環境も、暮らしも、国立公園との関わり方も異なります。

今回は、「日高山脈との関わり」を共通のテーマとして、みんなでその魅力を出し合います。さまざまな人が知っていること、感じていることを持ち寄り、この国立公園だからこそその価値を共有します。新しい国立公園だからこそ、「何を大切にし、何を伝えていく国立公園にするのか」から、みんなで考えていきます。

■ どんなことに使える？

つくったストーリーは、日高山脈襟裳十勝国立公園の魅力を伝える「共通言語」として活かします。



観光協会・
DMO・行政

業種やエリアを越えて魅力を共有し、周遊、共同企画、情報発信、地域づくりへ。



ガイド・登山・
アウトドア

地名や動植物を説明するだけでなく、山の成り立ちや自然のつながりを伝え、心に残る体験へ。



宿泊・飲食・
観光施設

目の前の風景、食材、地域の歴史を国立公園の物語につなぎ、「滞在する意味」を伝える。



自然保護・
再生活動

地域で大切に続けられてきた活動の背景にある思いや意味、守り続けてきた価値を通して共感を生むきっかけに。



農業・林業・漁業

農林水産物を単なる「地域産品」としてではなく、自然や水、海、人の営みとのつながりから伝える。



学校・教育・
地域活動

子どもたちが自分たちの地域を知り、「自分たちの国立公園」として考える学習や地域活動へ。

みんなで、日高山脈の魅力を語り合いましょう。